

健康文化

土

今井田 二三子

初夏の訪れと共に夏野菜、西瓜、茄子、トマトの苗などの植え付けのため今まで眠っていた畠が耕され、湿った土の香りが漂ってくると大地の伊吹きを感じられ活気が体の中から湧き出るような気がします。私が自分の中に百姓の血が流れていると痛切に感じたのは、保健所勤務の頃、未熟児の講習のため三週間ほど東京で過ごした時のことでした。それまでは都会の生活に憧れ、若い時代に一度は都会の波にもまれ、都会のテンポの速さを体験する必要があると思っていました。ところが都会である東京に身を置いてみますと一週間で土が恋しくなり、二週間目の日曜日には中央線に乗り井の頭公園に出かけました。以前、井の頭公園近くの叔父の家を訪れた時、家の裏には水田に畠、それに雑木林が続いていたのを覚えていたので、もしかしたら畠が見られるのではないかと僅かな願いを抱いて行きましたが水田も畠も家また家が変わっていました。ただ公園の土を見て少しほっとしたのを思い出します。

よく耕された土の上に野菜の青々と育っているのを目にするとき何か喜ばしい気持ちになってきます。学生の頃、畠仕事の手伝いを言いつけられる度、如何にして逃げ出そうかと思案を巡らせていた自分の中に、そんな思いが潜んでいたとは自分ながら驚きました。

土については畠ばかりでなく、以前訪れた患者の奥さんが「土の上に竹箒で掃いた跡がついているのが好きで、朝は自然に竹箒に手がかかります」と言われたことを思い出します。急がず、力を入れすぎず、僅かに弧を描いた竹箒の跡は清々しい気分させられます。しかし私の所の母屋の戸口の前は、細い雑草が一面に芽を出し、箒の跡は雑草で跡切れ、清々しい眺めとは程遠い有様ですが、いつの日かこの雑草を取り除き清々しく箒の跡をつけてみせるからと心の奥深く決心しています。

また土は種々な生き物を育み、春には草の根本から冬眠中の蛙が顔を出し、草の揺れを虫の動きと間違えて鎌の先へ寝ぼけ眼で跳んできて私をあわてさせ

ることがあります。最近は除草剤や、消毒剤の影響か、すっかり蛙や蛇も少なくなってきましたが、それだけに草の下から可愛い雨蛙などが顔を出してきますと、これから迎える夏を元気で過ごすようにと声をかけたくくなります。毎年四月頃に五月ツツジの下に現れる蛇の姿が今年は遅くなり気にしていたところ穴から出た後の寒波に驚いてか家の中に入り込み今度は若い職員を驚かせました。一寸した捕り物騒動の結果、戸外に出してやることができましたが暫く芝生の上でとぐろを巻き尻尾を立てて怒っていた様子でした。(こう書いておりますが私は爬虫類は好きではありません、庭先の住人？とでもいうのでしょうか。)

時には石亀が近くの用水路からのこのこと這いだしてきて土手の土の中で産卵していることがあります。夏の夜は蟬の幼虫が土の中から出て木の幹で羽化しています。小学生の頃、それを観察して夏休みの宿題の一つにしようと早起きしたこともありましたが、見るのはいつも褐色の普通の蟬になったのばかりで遂に目的を果たせないままで終わりました。

土はまたグローバルで輸入の雑草も、国産の雑草も分け隔てなく育み花を咲かせています。大柄な外国産のタンポポの側で小柄な国産のタンポポが仲良く競って花を咲かせています。

やがて私達も何時の日か土に還ることでしょう、天国に召されると言葉の響きの中には何か彩りを感じますが、土に還るという言葉には無色と静けさを感じます。しかし訪れる墓地には何時の間にか夏の宵、月見草が黄色の花を開き墓石の側で彩りを添えています。これも土からの贈り物でしょうか。

(内科開業医)